万国博・世界青少年のつどい開催

団長に尾形幹事長決る

進歩と調和につどう若人

遂に、万国博"世界青少年のつどい"は開かれた。提唱してから二年余、諸願の連続であったが、友好団体の厳密な理解によって中青連WAYの共催によって全世界に呼びかけがなされ、二十数ヵ国が集った。日本団は、奇しくも、団長に本会幹事長尾形賀知君がなり、栄誉を得る事となった。また、団員、本部員に各団体より以上の動員を行ない、本会為っての取り組みを表わした。内外に友愛二二にありと、次々的にアピールがなされ、次代のリードのイニシアチブを取った。戦後、東京オリンピック、世界青少年キャンプ、第六回世界青年会議総会と並び称され、三回目の世界の青少年のつどいであった。ここに大成功をしたのは全国団員の一丸となった協力があったからで、これを基に本会は、大きな使命をもって飛躍しなければならない。

本会が提唱し、一昨年より準備が進められ、昨年度は、大会会計の三本の柱の一本として重点事業として取り組みがなされて来た。万国博"世界青少年のつどい"は去る七月十日午後一時半、皇太子殿下御夫妻御臨席の下、盛大に東京日比谷公会堂に於て開催された。午後一時十分より、鼓笛バンドの先導により、オーストラリヤ、ブルネイ、カンボディア、ドイツ、香港、インド、スイス、アメリカ最後に日本と、参加国二十二ヵ国の各国代表団が入場した。

主張　つどいを終えて

【一】

東京オリンピック大会に続いて"産業と文化の祭典"日本万国博覧会は、日本の二大経済圏の一つ大阪の千里丘陵で開催され、史上最大の観客を動員し、大成功裡に終了しようとしている。

この万国博覧会の会期半ば過ぎ次代を担う世界の青少年約二十数ヵ国が一堂に集まり「教育・文化・芸術・スポーツ等を中心とした活動を通して若人の連帯を強め、人類の進歩と調和に貢献することを目的」として『万国博・世界青少年のつどい』を開催した。

この「つどい」は（一九六四年の東京オリンピック世界青少年キャンプにその源を発している）。中央青少年団体連絡協議会（以下中青連WAYという）が中心となり、全国的組織を持つ青少年団体に広く呼びかけ「万国博・世界青少年のつどい実行委員会」を組織したのである。そして、実行委員会委員、来賓最後に、両殿下の御臨席の入場を終え、開会式が始った。

橋本祐子実行委員長の開会宣言川島正次郎組織委員長、皇太子殿下の御ことば、坂田文部大臣の祝辞、参加各代表の挨拶等があり、二週間に亘る万国博"世界青少年のつどい"がスタートした。

会場には、二千名の参会者があり、第二部の民族舞踊の出しものに、国際親善交歓のデモンストレーションがあり、華やかな幕開けとなり、この模様はマスコミを通じて全国に報導された。

以下日程を追うと、十一日は、日本の首都「東京」の要所を見学し、日本に対する理解を深め、途中、バス内で親善を行ない、夜は雨の為、レクリエーションパーティーを変更して、東京オリンピック記念青少年総合センター、体育館において、「ゴーゴー・パーティー」を行った。それぞれお国の踊りが出て、皆楽しく踊り合った。十二日は、日曜日の為、外国のクリスチャン等は、教会へ行ったり、他の人々は、買物に行ったりで自由な時間を過した。夜は日本国三能による盆踊りを行ない前畑ヴィールは、時間の終ったもの、「阿波踊り」「炭抗節」等を踊った。また、余興として、友愛メンバーによるセンターでの茶席にて、「お点前」が披露され、各国代表団員の人々で国際親善の数時間、大賑合い、とっとっと会場よりあふれる人々もおり、大成果を納めた。十三日は、ユースフォーラム、新宿明日生命ホールにて各国の青少年活動について、討議がなされ、議論が沸騰した。時間が足りず、討議は余韻の時間にオープニング・ホームとして「平和」「開発」「社会主義」のテーマで逐次開催された。

夜は、外国代表団だけによる「都知事招待レセプション」があり、日本国内には批判が出て問題が残った。十四日は、朝々、移動、早朝より、荷物を整理し、バスに分乗し、東名高速道路を一路、名古屋に向けて出発、美しい日本の国土を眺めながら、交歓を行ない、車内は楽しさで一杯であった。豊田工場（宮戸の協力はもちろん、財界等各界各方面の協力を積極的に仰ぐ）国際的活動の必要性、国際的行事を開催するには青少年団体の一致協力の精神の必要性等二十一世紀に向って可能性に挑戦する段階に入ってゆくのである。

【二】

それでは、この「つどい」の意義は、どこにあるのだろうか。

それは①国内の青少年団体の連携の強化②青少年活動の重要性を各界に広く普及③次代を担う青少年に国際的感覚を身につけさせると同時にその資質の向上、さらに国際友好親善を通じて世界平和国家の建設の原動力に資する。

そこで、これらの意義を広く普及するために二週間に亡われ、東京・名古屋・大阪の三会場で諸行事・世界の民族舞踊・ユース・フォーラム・都内見学・奈良・京都見学・万国博覧会見学、お祭り広場を使用しての一大ページェント青少年のまつり等、NHKを通じての全国放送、新聞による紹介等マスコミによる活動、さらに今迄の青少年活動では接触的に働きかけをしなかった世界への接触により広く、より内容あるものとして活発な活動を展開した。

これらの活動は、青少年団体が殻にとじこもった活動から、インターより、東名を出て、日本最大の自動車メーカー「トヨタ自動車」を訪問した。石田会長、豊田社長の出迎えを受け、素晴らしい、日本の技術の見学を行った。次いで、名古屋へ向い、新装なった愛知県勤労青年会館に於て「愛知県知事、名古屋市長招待会」に出席、名古屋道を一路宿舎の長島温泉へ向った。

十五日は、奈良見学、地元の青少年団体の御世話により、よく楽内が行き届き、日本の郷愁の地、漸し、感動した。外国の人々は雄壮な歓迎を受け、大仏、何を取ってもワンダフルの声を上げていた。

この日の宿舎は、大阪で、旧住中之島研修所四天王寺宿坊であった。十六日は、古都京都見学、御所、金閣寺、二条城等と市内の名所を回り、夜は大阪マーチャンダイジャル大ホールにて、「大阪府知事、大阪市長レセプション」が開催され、歓迎の意が表された。

癒々、十七日からは、待望の万博見学、憲色帽子を被に頂き、つどい参加者とすぐ解る格好にて、万博会場へ入った。東洋で初めての「万博、「人類の進歩と調和」をテーマとする会場の雰囲気各パビリオンのそれぞれの美しさ、産業の発達の陳列、お祭り広場の催し等、アンバランスは面があったが、日本で開催されているという意義は、全員感じ取った事であろう。十八日も万博自由見学、十九日は、形式的な「大阪青少年団体との交歓・交流」、大阪の青少年活動の紹介があり、午後、銘々で大阪市内、自由見学を行った。二十日は、万博自由見学、二十一日は、今回の事業の最大の山場、万博会場で、緑々な催しが開催された。

最初に、万博ホールにて、日本万国博事務総長鈴木俊一氏による「万博の歴史」「万博の意義」等を中心とした記念講演会、午後からは、お祭り広場にての「若人のまつり」参加、全員が、隊列を組んで、タレントで親善の高橋圭三司会の下、入場式、夜は、実行委員会主催の「青少年のまつり」に参加し、全員で大合唱をし、ついで「阿波踊り」「炭抗節」をお祭交歓をしながら、三三五五、宿舎へ帰った。翌二十三日は、行事最後の日、各国代表者による「総括討議」が開催され、日本団は、独自に反省と評価をテーマに「総括討議」を行って、午後解団式を終え無事に各日程を終了した。

交歓をしながら、沿線の景色にみとれながら、今までの数々あった出来事、思い出話、又、各国の人々の意見交換をしながら過した。東京へ着いて、一時、宿舎のオリンピック総合センターへ荷物整理のため、落ち着き、夜、東京又京区の「椿山荘」で開催される「サヨナラパーティー」に臨んだ。これは、実質的公式であるもので、午後六時、橋本実行委員長による開会の挨拶、そして、川島組織委員長のことばがあり、パーティーに移った。

会場は二千名に及ぶ。参加者全員、又各国色取りどりの民族衣装の華やいだ光景、舞台では、31国自慢の民族舞踊の披露、別室ではダンスパーティー、模擬店等も出て面白く、可笑しく、食べる者、飲む者、会員、団となって意気の高まった交歓風景、会場の片隅では、タレントで親善の諸君の活躍振りを少し紹介しよう。

本部員として派遣された運輸省総務部会員よく人心を掌握の、秋田支部の佐藤栄治幹事は、毎日の日報作りに又、よき相談相手として活躍、行事部会では、学生部の新井洋文君が、車輌長として、移動の責任者となり、生部会では、なくてはならぬ人となった高知支部の三木裕子さん。彼女は、日常の総務部を買って出て、姉さんとして、慕われ、学生部の成嶋、内田両君も万博へも潜に行かせインフォメーションとして活躍、頭脳として活躍、ベテランの仲立ての役を果した。

◇団員の方では、班長以上主要な役職に三分一以上の会員が着任、特に都連の岡本省三君は、班長会議の議長に選任され、よく利を得た。

◇このように常に中堅で、下積として大活躍をした諸兄に敬意を表すると共に、この経験を今後の友愛活動の実践の中に取り入れ、全国青少年の一人一人が、この事業の成果を生かさなければならない。行事を企画し、それを消化し、参加するのみでは成果が上ったというものではない。それを糧として、我々は、明日へ向って新しい行動を起して行かなければならない。（清哉）

◇日本で開催された世界的な青年の行事は、戦後三回開催された、その一つは東京オリンピック世界青年キャンプ、そして第六回世界青年会議総会、それに今回の万国博"世界青少年のつどい"である。

本会が提唱し、中青連が主催し実行委員会が設置されて、副委員長に、尾形幹事長、事務局次長に社会国際部長、それに総務担当として、永田情宣部長が派遣され、組織を挙げて、取組みがなされた。

◇本会の参加者は、総勢三十二名に及び、他団体の枠から推薦された者を入れるならば、総勢の人数になり、どの班に行っても、友愛メンバーが、班の部会に行っても、友愛メンバーに当り、常に中心的役割を果し、他団体の面目を躍如たるものがあった。

◇此処に随行された諸君の活躍振りを少し紹介しよう。

清洲・南房総承認

第三、四常任幹事会開催

去る七月三日（金）午後七時十分より、本部事務所にて第三回常任幹事会を開催した。

議長は飯塚常任幹事が勤め、議題は次の通りであった。

①組織委員会決定の取り組みについて、②清洲支部の承認について、③第二回中級指導者研修会について、④万国博"世界青少年のつどい"の取り組みについて、⑤夏期講座の取り組みについてであった。

①については、六月二十日より、大津市に於いて、開催された組織指導者議員会に於て、実質審議された問題点について、前向きに取り組むことにした。②については、第二回常幹で否決されたが、今回は、書類完備の為、万場一致で承認された。③については、会場の都合により、開催日程が、国立淡路青年の家に於て、九月四、五、六日に変更された。④については、七月十日より二週間に亘って開催されるが、本会として七月八日に研修会を開催し、全員一致協力要請を行なわれた。⑤については、全員協力要請が行なわれた。

去る八月五日（水）午後七時半より、本部事務所にて第四回常任幹事会を開催した。

議長は、渡部文雄常任幹事が勤め、議題は次の通りであった。

①友愛文化講演会東海・近畿ブロック開催について、②第二回中級指導者研修会について、③千葉県南房総支部承認について、であった。

①については、九月二十八日より、十月三日までの間に、伊東市豊橋市、大津市、名古屋市で開催するよう沿見市、名古屋市で開催するよう準備を進め、万全を期することとし②は満場一致で承認された。

友愛

発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽 1-7-1
電話 東京（941）2801
編集兼発行人　斎藤　実
定価　1部　10円

綱領

一、われわれは、自らの革命によりの革命によりの革命により、友愛社会の実現に邁進する。
一、われわれは、民主主義の徹底を期し、人類の進歩と調和に、全力を傾倒する。
一、われわれは、科学技術の発展と生産の増強をはかり、豊かな文化の創造と、人類の福祉に貢献する。
一、われわれは、全世界の人間的な結合と、もって世界平和と人類の福祉に寄与する。

45年度の会費納入は早めに

家族パーティー開催

友愛クラブの三周年記念

去る五月十三日（水）正午より東京ヒルトンホテル"とよさき"の間において、友愛クラブ五月例会を開催した。

今回は、新しく新会員となられた佐々木慶吉子さんを迎え、講師に、大蔵省主計局長鳩山威一郎先生を招いて「当面する国内の財政問題等について」の講演を中心に進められた。

先生は、当面している国家財政の大元締めとして、予算の割り振り、又、各省庁の申請の指導について等の苦労話をされた。

ついで、尾形智短幹事長より、最近の友愛青年同志会の動き、特に全国大会の報告等があり、次回の家族親睦会の説明があった。

◇　◇

去る六月十七日（水）午後六時より、文京区"椿山荘"において友愛クラブ設立三周年記念家族パーティーが、鳩山薫先生、鳩山威一郎先生、宮川三郎先生御夫妻、石橋義氏を招待して、盛大に開催された。

本年は、友愛クラブが昭和四十二年八月九日に設立されて、満三年を迎えた。友愛クラブが設立された動機は、友愛運動を中心的に押し進めて、寝食を共にし、苦労を重ねて来た同志が、年令的な問題等で、一線を引くことになり、その時の有志が相集い、O・Bとして、なお一層の意志を高めるため、第十二回全国大会にて、発足が決議された。そして、毎月例会を行って、親睦を計りつつ、各界の知名人をゲストに呼び活動を続けてきた。

パーティーは、各会員の家族も集い、内助の慰労も兼ねて。

司会は、川手正一郎氏が努め、進行は、鶴巻克雄氏が行ない、世話役に、柳沢定勝氏が努めた。

定刻過ぎに、会場へ会員の誘導の下に、招待者を拍手でもって迎へ、会員の家族の紹介を行って、パーティーに入った。

途中クラブの最年長ということで、深津栄一氏により、長年の師として仰いでいる鳩山先生を始めとする招待者への御礼の挨拶があり、次いで、会員の喪服による招待者への記念品の贈呈があった。

パーティーは、エレクトーンによる演奏があり、正面、左には、故鳩山一郎先生の遺影が飾られ、皆、追憶の思い出にしばしふけ現役時代の「宮内クズカゴ会」の大合唱もあり、家族サーヴィスとして満点なものであった。

宴もたけなわ、名ごり惜しさの中に、鳩山先生、宮川先生等の御礼の言葉が述べられ、楽しいパーティーは終了した。

終了後、参加者は、三三五五、椿山荘名物の"ぼたる狩り"に出かけ、都会では見られない、田舎情緒をあじわった。

各種研修会開催

海外派遣と万博のつどい

去る七月四日（土）午前十時より、町村会館「パレス」の間において、昭和四十五年度「政府青年海外派遣員」及び「世界青少年交流協会派遣団員」の研修会を開催した。

午前の部では、「友愛運動について」尾形幹事長の講義があり、友愛の歴史的な流れ、今日の友愛の地位、位置付け等の説明があった。次いで、午後から「友愛の国際交流について」社会国際部長より講義があり、友愛の今迄の国際交流のあり方、流れ、今後の取り組み等についての内容のものであった。最後に、長田事務局長の司会の下、「本会の各派遣機関の関係について」「今回の海外派遣を今後どのように生かすか」のテーマを含わせて、総括討議として、研修を続けた。次いで、場所を鳩山邸新館に場所を移し、恒例通りの壮行会を行った。

壮行会は、午後六時半より始り奥田吉郎常任相談役、鶴巻克雄常任参与、中嶋信行常任参与の列席もあり、会場満杯の壮行会であった。

組織等についての内容のものであった。最後に、長田事務局長の司会の下、「本会の各派遣機関の関係について」「今回の海外派遣を今後どのように生かすか」のテーマを含わせて、総括討議として、研修を続けた。次いで、場所を鳩山邸新館に場所を移し、恒例通りの壮行会を行った。

壮行会は、午後六時半より始り奥田吉郎常任相談役、鶴巻克雄常任参与、中嶋信行常任参与の列席もあり、会場満杯の壮行会であった。

10回学生大会準備始る

第九回全国学生会議開く

第九回全国学生会議は、七月三十一日より八月三日まの四日間、軽井沢友愛山荘において開催された。

組織委員会などで学生会議の意義について検討されていたが良案がでなかった。そこで、かねてより全国学生部の要望ある学生大会案が注目をあびた。しかし諸行事諸問題と重なり、準備期間が非常に短縮され、やむなく学生大会案を断念せざるを得なかった。

だが、学生大会の必要性を重視し本部からの要望もあり、この会議内容を、第十回記念学生大会の準備段階とすることで四日間の日程を消化することとなり、大幅に日程を変更した。

開会式は、事務局次長吉川旅君の司会のもとで行なわれた。続いて本会議につづき、一般会務報告事務報告が事務局成嶋滋樹君よりあった。

二日目につづき午前中は、本会常任参与柳沢定勝先生の講演と討論を行ない、本会創立時代の友愛の学生の活動、また会員個人が友愛社会を建設し個々の人間が自分の生き方を考えて生きなければならない、この様な活動をとうして人と接することは大いに意義のあることである、ということで終り、先生と昼食を共にし午前中の日程を終えた。

尾形幹事長の講義があり、友愛の学生の活動、また会員個人が自分の生き方を考えて生きなければならない、この様な活動をとうして人と接することは大いに意義のあることである、ということで終り、先生と昼食を共にし午前中の日程を終えた。

三日目に入り、本部組織部長、渡部文雄常任幹事を交え、討論会に入り組織の拡充、第十回記念学生大会の開催に付いての討議を行なった。そこでは、低迷状態が続いている現況で学生大会という、大規模な行事を行なうことがはたして可能であるかという意見と内部的な問題と外部に対する問題の相互の関連を見なければならないとの意見が出された。

組織面では、全国学生部執行部の怠慢さが指摘され、大いに反省をうながされた。

夜はファイアーストームを囲んで山荘のホスラーと楽しい時を過ごした。

今回は日程的には討論の時間が少ない会議ではあったが、第十回記念大会をひかえて、我々学生部から友愛会員にわたり大きくメスを入れ、今後の友愛の発展に大きく飛躍する一段を登ったと見てもけっして過言ではない様に思う。

昭和四十五年度全国学生部執行部

委員長　成嶋　滋樹（東京）
副　〃　細井　良昭（徳島）
〃　北海道（未定）
事務局長　吉川　敏（東京）
〃　次長　内田　博章（東京）
〃　篠田千恵子（東京）
会計　増田　一朗（徳島）
監査　和泉　徳島二名（未定）
常任委員　畠山雪二郎（東京）

ローターリー

投書欄

北海道に友愛山荘ができるという。われわれの山荘にこれで磐梯・軽井沢の山荘などと七つを数える。北海道友愛山荘建設は長い間、いまかいまかと皆が待ち望んでいたのである。

昭和三十二年の友愛山荘建設運動の計画書を見るとその喜びも一入である。

設運動の計画書を見ると、その大合唱もあり、家族サーヴィスとして満点なものであった。

宴もたけなわ、名ごり惜しさの中に、鳩山先生、宮川先生等の御礼の言葉が述べられ、楽しいパーティーは終了した。

終了後、参加者は、三三五五、椿山荘名物の"ぼたる狩り"に出かけ、都会では見られない、田舎情緒をあじわった。

構想は実に二十九ヵ所もの建設構想を打ち出している。しかしその後計画は十分に達成されず不本意のまま現在に至っている。その原因は思う通りに財源を確保できなかった会の財政的な面の理由からなそうだ。しかしながら北海道山荘が建設されることは財政的な余裕が出来たからということになるかと云えばそうではないだろう。

会員から納められる会費などで運営する会の財政からしてそんな余裕はないはずである。

建設のための運動を盛り上げようではありませんか。各々の組織で資金カンパを行ないうではありませんか。そして皆が新らしい山荘につどい"友愛"を語ろうではありませんか。

都連　C生

去る七月八日（水）午前十時より、鳩山邸新館において、万国博世界青少年のつどい参加団員及び本部員の研修激励会が開催された。

これは、本会の最重点取組みとして行っている行事に、大量に同志を派遣するため、徹底的に友愛を理解させるために行ったものであるが、各人の日程の調整が難しく、特に、一本部員参加者は、実質の準備に入っているため、参加は少なかった。しかし、終日参加者は、熱心に講義を聞き、十日から始める万国博"世界青少年のつどい"の心の準備を行った。

春夏秋冬

▽…友愛山荘は、若々しい青年男女の旅行者で毎日盛況である。八月に山荘を訪ねる青年の多くは長い夏休を利用して全国を行脚する学生諸君のようである。山荘を利用する学生諸君の一人一人を見るからには、学園で紛争を起こす暴徒と同じ学生であるとはおもえない。つかわしくない。山荘を訪ねる彼らのマナーは正しく、山海の自然を求める心は清ら澄み切っている。しかし彼らが一旦学園へ帰ると一介の暴徒と化すかとうかはわからない。彼らの学園での行動を追跡して見たいけでもないが、しかし海の自然を求める彼らに限ってそのようなことは……と信じたい。

▽…昨年、青年の船が縁で結婚し今夫の仕事のためシンガポールに在住している都連出身の小西淳子さん（旧姓・早川）の便りによると、外地の生活にもすっかり慣れこの秋には二世誕生との事ですこぶる元気な様様。シンガポールは、複合国家で両隣がインド人とマレー人その隣りが中国人といった風で家庭内での会話は、各々自国語で隣人同志の会話は英語で話すそうです。それに比べて日本は単一民族で何処でも同じ用語であることの便利さを改めて感じさせられるそうです。

▽…七夕の日に世界青少年交流協会の日独定期交換でC班の監督として参加した事務局長長田正太郎君の活躍はめざましいものがあった、との噂がちらほら。事実、C班のチームワークは他に抜きんでていたそうで、それは帰国してからも時々集会を開くなど親交を深めていることからも伺える。

▽…本会と姉妹関係にあるオーストリア勤労青年連盟（ÖJAB）の一行七名が万博青少年のつどいに参加するため来日したため本会主催の夕食会を開きオーストリアからの旅の疲れをいやしながら今後、本会とÖJABとの親交を深めあった。

× × ×

綜合警備・各種建築内外清掃
ボイラー・電気保守管理業
指定　北海道教育委員会・札幌市教育委員会
室蘭市教育委員会
株式会社日本製鋼所

東洋実業株式会社
代表取締役　吉川昭市
副社長　向田忠一
本社　札幌市南1条南2丁目（鈴銀ビル8階）
電話 代表 25—2211内線219
直通26-9520・9521 夜間直通25-2217
営業所　釧路・帯広・室蘭・苫小牧・岩見沢

☆★☆★☆ 躍進する森井の監視盤・制御盤 ☆★☆★☆
選択制御監視装置・ユニット型動力制御盤　設計製作
監視盤・分電盤・高圧低受配電盤

森井電業株式会社
取締役社長　森井定勝
本社　東京都港区三田2丁目19—12　電話（451）代961 1
東京支店　東京都品川区南品川4—1—3　電話（474）大代表3221
大阪支店　大阪市北区常安町16番地　電話（443）代8381
出張所　仙台・名古屋・広島・福岡
工場　東京・名古屋・大阪・福岡

いつの時代にも新しい三越
日本橋 三越
受けて重宝 三越の商品券

営業品目
機械部　電子計算機・電子複写機・タイムレコーダー・ベルタイマー
化成品部　ビニール・プラスティック・ポリエチレン製品の製造及加工
紙業部　紙袋・装紙印刷・洋紙特殊紙・その他・紙工品
自動車部　ホンダ N360・ホンダ二輪車・自動車損害保険
特販部　コピー用紙（電子・ジアゾー・ゼロックス）現像液・トナー・青写真
ニッセー株式会社
東京都千代田区外神田4丁目5番4号
電話東京(03) 253—7581(代)

美しい魅力を　いつまでも貴女に——　Premarin
更年期及び更年期後の婦人に
結合型エストロゲン製剤
プレマリン錠
40代・50代におこりやすい更年期障害……のぼせ・発汗・頭痛
なんとなく気分がすぐれず疲れやすい……にマイルドな効果を発揮するプレマリン錠を！
製造発売元　東洋醸造株式会社　提携　アイヤースト・ラボラトリーズ・米国
東京・静岡・大阪・名古屋・福岡・札幌

世界青少年のつどいに参加して

今回のつどいに、本会から三十二名の皆さんが参加され、それぞれの立場でいろんな経験や体験をされた。各組織へ帰り、その成果を報告しながら、これからの活動の一助にされていることと思われます。ここに、参加された感想や意見が数通寄せられましたので、掲載致しました。団員の立場から、本部員の立場からとその運営面、交歓状況等、二週間の期間ではあったが、将来への二つの指針として、われわれは、この事業を実行致さなければならない。

秋田支部幹事　佐藤　栄治

世界の若者達が相互に理解と友情を深め合いながら、二週間生活を共にしたキャンプは、アジアで初めて開かれた万国博を記念して行なわれたことあいまって、誠に意義深いものがあった。しかも運営のすべてを国内の青年団体の手で行なったことは、賞讃に値するものと思う。とりわけ、友愛の果した役割は大きく、企画から実施に至る主要な仕事を担当した諸兄のご労苦に対して、心から敬意を表したい。キャンプのスタッフとしてとこの パートに も必らず"友愛の仲間"が活躍していたことも、本会の組織力を示すものと非常に心強く感じた。

私は、総務部会に所属する裏方の一人として、日雇班を担当、日報編集局長のポストを与えられたものの、実は本部で作られるすべての印刷物をプリントする役割で、輪転機とタイプの音、インクの匂いの中で半月を過したようなもの。毎晩十時には原稿を書き終え、和英二種のニュースが夜中に刷り上る。次の日のスケジュールが夜になって変更される時は、いや応なしの刷りなおし。大阪では、ついに輪転機がオーバーヘッドしたり、印刷物が多い時は、翌朝の七時までベッドに入れない日もあった。スタッフとして誠に小さな役割を担ったにすぎないが、日頃青年団体を育成する職務にある私にとって、暑さと疲労の中でなしとげた地道な仕事が、今は非常に貴重な体験であったと思っている。

さて、つどいの運営上の問題について、感じる所を若干述べたい。まず、運営組織とスタッフの問題であるが、"準備疲れ"のせいか、船頭が多い場合には、実行委員が自ら率先して仕事に当る意欲に乏しかった。各団体からの寄せ集めのせいあろうが、スタッフの人間関係に微妙なものが感じられる向きもあって、部会間の連携や指示系統にあまさが見受けられたのは残念である。当然前もって準備しておくべき事務的な事を期間中にゆっくりと処理する胸のよさには驚いた。オリンピックの経験から"平常慣れ"の傾向もあったようだが、これらは、組織の機能と情報の流れをセーブする要因になったものと思う。

次に団員とプログラムの印象であるが、全体的に誠になごやかな雰囲気で、国際親善の成果は相当大きかったと思われる。しかし、つどいの目的を思い返してみても単に交歓やお祭りだけではもの足りなさを感じたのは、ひとり私だけであっただろうか。真の相互理解は、「心を開いた話し合い」から生まれるもの。大阪では、アメリカのリリアン団長の提唱で、毎夜遅くまで"平和"や"開発"などについて熱心なオープン・ディスカッションがなされていたが、これは私にとってさぞやかお救いであった。また日本団の団員間の格差は、かなり大きかったようである。事前研修がほとんどなされたことは残念であるが、生活をみても、青年団体に所属している者と無所属者の開きが、特に目立った。これを教機に、何だかは本の青年は、個々の能力はすぐれているが、集団生活に入れば、誠にお粗末な面が多い。特に、リーダーシップの向上には、これからの青年団体にとっても、真剣に考えるべき課題だと思う。

次回の催しのために付言すると①事前準備を完全に、スタッフの協調性と行事に対する理解の徹底を。②外国団に対して、自主的な生活を期待しながら、もっと親切で能率的なサービス体制を。語学力の不足から今回も多くの外人の怒った顔に接したが、本部に直結する情報センターと総合的な困りごとの相談所を設けては。(これは、日本団員にとっても同じ)③国内でのこの種の催しは、海外派遣にはない大きな成果がある。各都道府県や市町村に積極的に働きかけて、関係者の関心を高め、より多くの青年が参加するように。

このキャンプの成果は、一に世界の若者達の心にかかっている。世界の情勢は、大きく変ってゆくであろうが、二十一世紀は、まさに今の若年達の時代なのである。とりわけ、アジアの文化と若者の果す役割が、世界の平和に大きく貢献する日が来ることを確信したい。

(本会職員)

東京学生部　内田　博章

万国博"世界青少年のつどい"のような大がかりな行事で仕事をすることは自分たとっては初めてのことであります。日本の各青少年団体から派遣される人々や本部員が構成された。その中で友愛の名をはずかしめず又、本部員の任務をまっとうできるのかとうかという不安があった。私の所属は生活部会であった。生活部会の役割は参加者の生活の世話である。つまりつどいの表面には出ない地味な仕事である。しかも毎日の睡眠時間三~五時間という毎日である。しかしこのつどいの各部会の中で最も チームワークが 良かった。そして青少年のために大変意義のあるこのつどいを成功させようという気持ちの張りつめる中に楽しくまた充実した 毎日を 過した。このつどいを通して感じたことはまず第一にこのような大がかりな行事については世論の盛りあがりがなかったのではないか。よく言われていることだが日本という国は青少年運動に対して理解が薄いということを感じた。(世論の青少年活動に感じての理解)第二点は、このつどいの期間中の各国参加者での討論会が日程の中にあまり組み入れられていないということである。

世界の青少年が一堂に集まる機会を生かすことができなかったことが非常に残念なことであり、観光旅行という感が強かった。日本でのこのような方法の集いは転換期に来ているのではないか。どこからどこまでと型にはまったものでなく、各参加者がテーマをもって自主的にあらゆる角度から研究できるようなシステムをとるべきである。また他に各部会への提示系統が乱れていた。つどいのための初歩的な準備が完全でなかったためどまどまどあったが、そのような事務的なことである。この集いに参加した青少年が国へ帰り、学んだことを生かして次代を担っていくことと思う。自分たちとしても組織というものを学び、世界の青少年と共に生活をし各国への認識を新たにした。そして最後に参加者自主的に活動できる、青少年のつどいへと方向が変っていくべきことを念を押しておきたい。

都連事務局長　岡本　省三

一、青少年運動のリーダーと接し、今後の自己の 活動に 選択する。

私は友愛の会員になって、九年目を迎え、友愛活動を通じ、数多くの人と接し、いろいろな事業に参加して、「良きメンバー・良きリーダー」そして真の青年になるように努力してきました。

しかし今までは、友愛という池の中を、右往左往していたのが現状でした。

これでは、井の中の蛙でしかなかったわけです。

そこで今まで自分が学んだ数多くの知識が同じ世代で同じ青少年運動をしている人と話をすることによって、自分なりの評価をし、今後の活動の示唆に致したく参加した訳です。

どんな組織のメンバーも、会員の増加を考え、組織の充実化を図ろうとする意見は誰れしも同じでしょう。

しかし、私達の様な各国組織をもつ団体と、そうではない団体との差は、事業面・活動展開では、大きく異なりました。

共通にいえることは、資金的な問題でかなり苦しいということでした。

特記できることは、団体は各種各様であっても、学校教育では学べない社会教育面を青少年運動を通じ、メンバーが企画し、実行し互いに学びあう姿には、何ら変りがなかったことです。

また我々参加団員が横の連絡を密にし、互いに所属団体の強化推進のために連絡機関の設置を協議し、出来ればが、年一度の会合をもってメンバー同志、互いの励みにするようにしました。

私は多くのリーダーと接し、青少年運動に大きな理想と、自信をもって帰って来ることが出来ました。

城北支部　矢崎　富美子

万国博"世界青少年のつどい"その中にも各国の政治意識が絡んでいるように感じました。例えば韓国、中国に各自一つ呼ぶのにもこだわる程の深い政治問題が絡んでいる。そんな中でベトナムの人、カンボディアの人達が少なくとも楽しそうに見えたのは、嬉しかった。このつどいに共産陣営の参加が無かったこと、調和を願う万博を記念しても、第一の不調和の一歩の様な気がしました。ある本に"相互理解とは、相互批判の後にある"と書かれてありました。せめて、青少年のつどいくらい、こうした政治意識をとり除いて何かがあっていいものではないでしょうかとこれは単なる理想かも知れません。

私個人としては、香港の人達と友達になれたこと、それによって私の社会観が変りつつあること。日本人いえ、多くの外国人は、香港をどの様に受け取っているでしょうか。舶来品が安い国、遊びのにもってこいの国、そんなイメージの下で、ミーミーというと十六歳の少女は、こんな風に言っていました。"香港は植民地で。あなたは、日本という国に住んでいるから幸福"と。「植民地では人間は貴利已的で、自分の欲しいものは、自分で手に入れなければいつまでたっても自分のものにはならない」とこあなたの性格は国では、よくもいい、けれどお植民地では通用しない」と本当にショックでした。

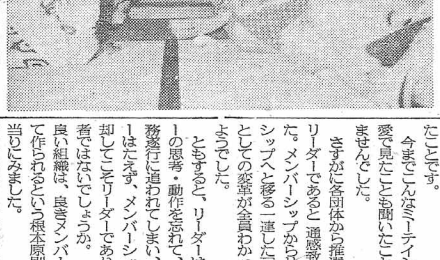
植民地十八人々の苦しみは、口ではいうことは出来ない、また私達には経験することも出来ないと思いました。私は聞きました。なぜ独立国になるための運動を起きないのかと。彼女はいいました。植民地には、階級があり、富裕者はいてもいいでしょうか。

(四面につづく)

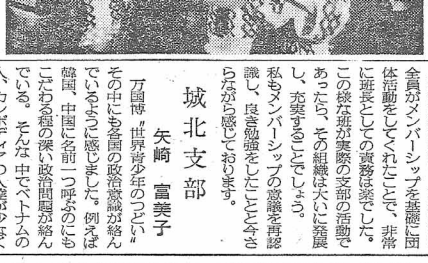
八班は団結力が強く、内容的にも全員がメンバーシップを基礎に団体活動をしてくれたことで、非常に班長としての責務は楽でした。この様な班が実際の支部の活動であったら、その組織は大いに発展し、充実することでしょう。私もメンバーシップの意義を再認識し、良き勉強をしたことをさらながら感じております。

尾形団長を先頭に入場する日本団

熱心な討論会


友愛の女子団員が茶道を披露

楽しい奈良旅行


歌って踊っての楽しい一夜

鹿島研究所出版会
人づくり、国づくりにも役立つ
友愛思想の名著
クーデンホーフ著作シリーズ
■R・クーデンホーフ・カレルギー伯著
法学博士　鹿島守之助訳
パン・ヨーロッパ ¥380
—ヨーロッパ連合—
ヨーロッパ国民 ¥370
実践的理想主義 ¥200
世界平和への正しい道 ¥200
悲惨なきヨーロッパ ¥200
技術による革命 ¥200
ゼントルマン ¥70
ヨーロッパにおける奴隷の復讐 ¥70
ヨーロッパの統合 ¥70
戦争から平和へ —平和のための条件— 深津栄一訳 ¥300
ヨーロッパは統合しなければならない 深津栄一訳 ¥200
■オルガ クーデンホーフ手記 鹿島守之助訳
戦争の悪ひ山 ＜独文和文＞ ¥100
■近刊
クーデンホーフ自叙傳
人生の荒後
■河出書房版
法学博士　鹿島守之助訳
ヨーロッパの三つの魂 ¥430
戦争主義の運命 ¥430
学校・図書館の必備図書　図書目録呈
東京・文京区小日向九丁目
鹿島研究所出版会

地方だより

奉仕の精神を涵養

北と南で活発な福祉活動

【札幌発】北海道連 札幌 北支部（支部長＝佐藤義喜）では"友愛の実践活動は福祉活動から"というキャッチフレーズで施設慰問など盛んな活動ぶりの模様を送稿してきた。

――当支部は、支部活動として福祉活動を重点的に行う計画だが、具体的な実施方法について、会員各々の意見を取り入れるため「今後の福祉活動をどう推進して行くか」と題し話し合いをした。

①福祉活動についての意義づけはしっかりしているか②具体的な実施方法はどうあるべきか③活動を続けていくうえで当面の目標をどこに置くか、の三点について福祉活動の経験者の意見を参考に話し合った。結果、われわれの"友愛"は福祉活動を積極的にすすめるのが主旨であるという事に意見が一致した。また社会福祉活動といっても余りにも多岐にわたりわれわれにできる事には限度があるが、とにかくどんな事でもいい、身近な事から行動を開始すべきとの結論になった。

早速民間施設の札幌郊外にある松泉学院を慰問し労働奉仕をした。松泉学院は精神病院の院長さん達によって建てられたもので女子寮、男子寮、重症者仕事場などの施設があり患者は五〇〇人位で保母、医師、職員が二〇〇人も働いている大きなもので学院の運営は一つの村の行政のような形でなされている。入院患者は事場もあり畑を耕し、ニワトリを飼ったり食しい自給自足の生活をしております。

政府からは少々の援助があるようですが、それは微々たるものでいろいろと工夫をこらし自活しているのです。われわれは、古い衣類などを会員、友人の呼びかけで集めて持参した。そして学院の子供達と踊、ゲーム興じ院内の清掃をして一日を過ごした。

こうした自除の社会を見るにつけ、われわれも出来る限りの思いやりでもって良家兄、良家姉になってあげなければと新たな決意が湧いて来ます。

その後六月七日、二十一日、それに七月五日の三回にわたり市内の福祉施設を訪問し散髪清掃などの奉仕を行ない福祉活動は計画どうり順調に行なっております。

――北支部通信員

【那覇発】沖縄県那覇支部（支部長崎山喜喜男）より奉仕活動の様子についての寄稿があった。

私たち那覇支部では、奉仕活動の一環として日頃光の世界からとざされるという障害を持ちながらも勉学にいそしんでいる自の不自由な子供達に少しでも喜んでもらおうと七月十九日沖縄盲学校を訪れました。

今回の盲学校訪問の趣旨は、奉仕活動の実践をとおして、その意義を認識し、奉仕精神の涵養につとめ、広く一般社会にもその必要性をアピールし、あわせて友好団体の相互の連りいと親睦をはかることでありました。

午前十時、早速、作業にかかり日頃手のゆき届かない花壇や校庭の雑草むしりをはじめる。

沖縄の七月は、もう夏の真盛りである。会員は一人一人熱心に作業につとこみ、肌はまたたく間に真黒に日焼けしてしまいました。

作業を終えてから校長先生によって盲学校の現状と問題点などの説明がありました。

昼食の後、二時から盲学校の宿舎を訪れ、各部屋に分れてリーディング・サービスをいたしました。

五体満足な子供達に本を読んであげてもなかなか熱中してくれないのにそれに比べて彼等があまりにも熱心に、心の扉を開いて聞き入いわやうこうに感心し、私たちは、いやがうえにも手に読んであげなければという気持にかられました。その後、生徒会長等を囲んでの交歓会に移りました。

彼等の点は、信じられないほど明るく、ハキハキと覚見をのべている点に私たち一同を胸打たれずうしでした。

なにもかもうちに合目標を消化し、午後五時、晴れぼれとした顔で帰路につきました。

当日の模様は、報道されました。

私たちの今回の訪問の目的である一般社会への奉仕精神のアピールも所期の目的を達成したものと活動が成功したことに満足していっぱいです。

――那覇支部通信員――

施設の児童を訪問する札幌北支部会員

第10回福島県連大会

土屋寿男君を会長に選出

【会津若松発】福島県連（会長＝星健夫君）では第10回大会を七月十九日（日）午後三時・会津若松市公会堂会議室で開催した。

県連大会は、四十四年度会務報告、会計報告を承認、四十五年度運動方針、事業計画の審議はいった。

運動方針は、今まで当県連では見られなかった他団体の交流を青少年育成県会議、あるいは県青少年団体連絡協議会を通じて活発化し県下に"友愛"の名を浸透させて行くことにし、組織強化としては、現在県南地域がまったく組織化されていないため、郡山市を始め白河、相馬の地域にも浸透を図って行く、また本部主催の友愛文化講演会が会津若松と西会津の二ケ所で開催されることには昨年の福島講演と同様、県連と総力を挙げてバックアップすることを決議した。

事業計画の主な点は次の通り。

八月　友愛サマーレクリエーション大会（於猪苗代湖畔）

九月　組織強化月間（会員獲得運動）

十月　県支部交換会（於郡山市）

十一月　歳末助け合い運動

二月　友愛スキー教室（於猪苗代国際スキー場）

次いで役員改選に入り四十五年度の新役員を選出した。役員改選では、長年県連会長として任務を全うして来た星健夫会長が引退した。

新会長に土屋寿男（猪苗代支部）、副会長に鈴木武彦（郡山支部）、鈴木滋雄（会津若松支部）、佐藤昭夫（福島支部）、会計に富樫房子（会津若松支部）、監査に宮沢教子（福島支部）、馬場初夫（大沼支部）、事務局長に月研造（猪苗代支部）、組織委員長に土屋寿男（猪苗代）、財務委員長に菅野保男（猪苗代）、広報委員長に塚原勇雄（西会津）、理事に渡部修（西会津）、樫村弘（福島）、酒井和枝（会津若松）、菅野勝（猪苗代）、横山孝（大沼）の改選後会長を引退した星健夫前会長は「長年皆様方の御協力の結果、昨年あたりからそれぞれの支部が会費の納入をはじめ自主的活発な運動展開のために努力して行きたい。」と長年の活動を噛締めるように挨拶しみんなの拍手を浴びた。

大会終了後、夕食を囲みながらの懇親会をして散会した。

なお大会の来賓として、清水文夫参与、渡部文雄組織部長が出席した。

千葉県の組織強化

南房総支部発足する

千葉県安房郡に南房総支部が誕生した。南房総支部は昨年より高柳邦雄、永井英保両君が中心となり結成準備会を発足し、組織工作を進めていたが去る六月二十五日の友愛文化講演会長狭町講演を契期として結成された。

南房総支部は長狭町・鴨川町を中心地域としやがては南房総全域にわたり浸透を図る計画で運動の進め方としては、農村地で地域青年団体との連携を取りながらも"友愛カラー"を十分活かし、相互交流をもとに次代を担う有能な青年の養出に努め、地域開発に寄与して行くとしている。

事業計画としては友愛普及活動②社会教育活動③産活動④国際交流活動⑤レクリエーション活動を挙げている。

支部役員は次の通り

支部長　高柳　邦雄
副支部長　永井　英保
事務局長　高梨　利夫
会計　松本　恭一
監査　熊坂　賢
総務部　池田　幹雄
組織部　安藤　渉
文化部　鶴岡　和子
〃　高梨　純子
体育部　鈴谷　米子
〃　原　政子
事務所住所
千葉県安房郡長狭町松尾寺西二七
長狭町役場総務課内

なお、本部より渡部文雄組織部長が参加した。

三島・小牧

友愛チャリティーショーを開催

【三島発】静岡県三島支部（支部長＝黒萩道義君）では去る七月三十日（木）七時より三島市公会堂で「友愛チャリティー・ショーを開催した。

このチャリティ・ショーは、支部の福祉活動の一環として、また友愛の普及活動として開催した。

開会時までの雷雨のため入場者の出足が予想より悪かった。それでも五〇〇名余りの入場者があり、ショーは一応の成果を納めた。森田秀昭君の司会で開会され、日大吹奏楽研究会が演奏する示ビュラ、ジャズ、民謡、クラシック、テレビソング、カの出題歌などに大湯沸みんなが驚きされた。

なお、益金はのべまれないうちのために三島支部がさく慰問しなりみ深い見晴学園に寄附することになった。

当支部でのこの種の企画は初めての経験であったので、入場券の販売、ポスターの作成、舞台装飾などに大変苦労した。しかしこれが機会となり会員同志の結束も強くなり、今後、三島支部をもっともっと発展させ幅ひろい組織にしていきたいと思っています。

――三島支部通信員

【小牧発】愛知県小牧支部（支部長＝永田広和君）では、三島に続き、七月三十一日（金）午後六時半より、小牧市中央公民館において、「友愛チャリティー演奏会」を開催した。

この演奏会は、"世界の願いー交通安全"をテーマにして行なわれ、日中、日本大学吹奏楽研究会の皆さんによる市中行進が行なわれ、市民に啓発をもって迎えられ、交通事故死亡率世界一の汚名を持っている愛知県民への交通安全の必要性を訴えた。

第一部は、ブラスによる演奏を行い、ついでNHK歌のおばさんで知られている童謡家松田トシ先生による交通ルールの話、自ら交通救は防がなければならないとする。交通マナーの話等を混ぜ入れ「ドレミの歌」「ふるさと」等、教曲、心に残る歌を披露してもらい、参会者と共に拍手をしながら全員で大合唱し、楽しく歌った。

第三部は、日大の誇るブラスの妙技"ドリル"演奏を行った。

これは、隊列を組みながら、演奏をするもので、静的なものでなく、楽器を持ちながら、行動演奏するもので、その一糸乱れることもない、その素晴らしさは、参会者一同、感嘆の声を上げていた。

終了後、日大のブラスメンバーと支部会員との交歓会を行い、その私達日本人が、どれだけ彼等の苦しみ、そして彼等を理解出来るのか疑問に思ったし、日本に期待を持ちる後進国の人々へのこんな点においても、日本は理解していかなければならないのではないかと思いました。

彼女との会話から、日本にも似たことがある点に思った。日本の中で変ってきました。もっともっと沖縄の人達の苦しみを、本土の人達は知ろうと努力しなければいけないと……。同じ日本人でありながら、現在もなおアメリカの植民地的存在であることを……。

彼女とこれからの女性像を話し合いました。彼女曰く「私達が二十数年社会から教育を受けたのなら、二十年それ以上社会へ出て得たものを教えるべきだと……。次の世代の人達のために、自分が得た本女性の多くは、単なる花嫁修業等の為に大学へ行くか、単なる教養を身につける為として大学へ行く、そんな中で、社会へ還元する生き方を私も考えなければいけない、外人、特に彼女からそんな意見を聞いたのは、とっても嬉しく思いました。

又、班の中に私と同じ考えの人がいてくれたのも感激でした。女性といえども、常に向学心に燃えていなくてはいけないし、それを還元させる為にもなくてはいけないと思います。

自己反省としては、ある意味では、我ままな行動が多かった様に思います。班と友愛、どちらかの友達をも知りたいと思う欲ばりな気持ちから、どっちつかずの行動が多くて、かえって皆に迷惑を掛けたのではないかと思っています。「人のいいということは、そうなのではいけない」という文句があります。いつも心にきざんでいるんですが、このことにでもお嬢様育ちで世間知らず、ちょっぴり理屈ぽくって、生意気で、そんなのが私のイメージの様なきがします。自分でほいいと思っても他人から見れば、それがよくない事がたくさんあります。未だ未だ甘えている点が多いと思っています。楽し過ぎてのりすぎ気味でした。つぎに参加する前に、自分がこれだけ団体生活に耐えられるか試してみたいと思っていたのですが、耐えるの耐えたいなんてもおもしろかった様に思います。

疲れて不満がちになり、嫌な顔にもかおが楽しかったという気がします。それは、班内にトラブルがなく、班自体が非常にうまくいっていたことと、親しく話する友達が多くなったことになると思います。また団体行動の大切な経験としては、最初の班行動ゲームがあり、ユースホステルのミーティングのような気がして、二十一歳の私には、少々幼稚に思えました。

また宿泊を通じて、日本情緒をほんの少しでも紹介出来たことも、とっても嬉しく思いました。つたない私の英語、それでも私自身、日本情緒がどうなく変っている一人ですので、少しでもさく、正しく理解してもらうこと生懸命説明をしました。そんなにでベトナムの人が茶道に興味をもっていて、質問を受けたことや、スイスの人達からとっても解り易い説明でよかったと、ほめられたことは生涯忘れられない思い出となると思います。

やはり、なににでも打ち解けようと努力する必要があることを感じました。

終了後、日大のブラスメンバーと支部会員との交歓会を行い、楽しい一時を過ごした。

――小牧支部通信員

盲導犬を普及させよう

【小樽発】北海道連小樽支部（支部長＝長保孝君）より、盲導犬普及運動と例会の模様の便りが寄せられた。

（七月五日）"北海道にいる一万二千人の目の不自由な人々に盲導犬を与えよう"という趣旨で去る五月三十一日の街頭募金活動に引き続いて第二回目の募金活動を行なった。これは当支部・北海道盲導犬普及協会より協力要請があったことから全面的に協力援助をしている運動です。

小樽市内のデパート前に集合しビラ配布やスピーカーで市民に募金への協力を呼びかけた。

街を行きかう市民は非常に協力的で大きな成果を納めることができました。当支部では"盲犬普及運動"を毎月一回程実施し、一日でも早く北海道内の盲人の方々に盲導犬がはやくたく様努力しているが、この運動を通じて、一日でも早く北海道内の盲人の方々に盲導犬がはやくたく様努力し、ていく方針です。

（七月十一日）七月の支部例会は、実内レクリエーションを行ないました。小樽市では、校開放事を開始したので、早速利用を申し込み午後六時半から二時間余り、バレーボール、卓球に汗だくになり楽しい夏の夜を過ごした。

当支部ではこうした催しを数多く企画し会員同志の結束を強めて行くことにしている。

中央日誌

7/1　世界連邦日本青年協議会理事会（於総会議室）

2　国際教育年記念式典（後二時　於国立教育会館）

3　万国博世界青少年のつどい実行委員会（後二時　於全国町村会館）

第三回常任幹事会（後七時　於本部）

4　海外派遣官第一次研修会及び壮行会（前十時　於鳩山邸はなれ）

早朝墓参会（前十時　於谷中）

青少年育成国民会議事務局幹事会（後五時　於霞山会館）

訪独国代表団出発（後九時　羽田）

8　万国博世界青少年のつどい参加者研修会及び激励会（前十時　於鳩山邸はなれ）

10　万国博世界青少年のつどい開会式（後二時　於日比谷公会堂）

12　石川県加賀支部との懇談会（正午　於本部）

18　友愛婦人会七月例会（後二時　於鳩山邸はなれ）

20　オーストリア動労青年連盟との懇談会（後六時　於高輪）

23　万国博世界青少年のつどい閉会式（後六時　於霞山荘）

27　新生活運動協会部会（後二時　於市政会館）

30　万国博世界青少年のつどい友愛代表団反省会（後七時　於本部）

株式会社 中嶋組
取締役社長 中嶋信行
東京都世田谷区市川中町二の五九
電話（420）1133～四番
目品業営
アスファルト系舗装工事
セメント系舗装工事
其の他各種舗装工事
舗装に付帯する各工事